

令和3年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」
事業実施報告書

- I スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意識や歴史に関する学び
II マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成
III スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築
IV 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成
V スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成

道府県・政令市名【 茨城県 】

学校名【 鹿嶋市立豊郷小学校 】

1 実践テーマ	Ⅲ
2 実施対象者 (学年・人数)	4年生 32名 (実技は参観のみ、講演会に参加) 5年生 19名 6年生 23名
3 展開の形式	(1) 学校における活動 ① 教科名 (4・6年：道徳、5年：総合的な学習の時間) ② 行事名 () ③ その他 () (2) 地域における活動 ① イベント名 () ② その他 ()
4 目標 (ねらい)	<ul style="list-style-type: none"> パラリンピック競技のトップアスリートを招聘し、障がい者スポーツを実践することを通して、共生社会について考え、福祉について学ぶ機会につなげる。 パラリンピック競技のトップアスリートの生き方について学び、夢・希望・感動との出会いや自己実現に向けての努力、困難に立ち向かう意欲等を育成する。
5 取組内容	<ul style="list-style-type: none"> 事前にブラインドサッカーに関するDVD（ルールや特徴について）を各クラスで視聴し、意欲を高めた。 講師指導のもと、5年生と6年生がそれぞれ1時間ずつブラインドサッカーを体験した。 <ul style="list-style-type: none"> ① アイマスクをした状態での準備運動 グループを組み、リーダー以外は全員アイマスクを着けた状態でスタートした。リーダーは、講師が行っている屈伸等の運動を、言葉でみんなに伝えた。説明が難しいようであった。



- ② 少人数でのドリブル・パス・トラップの練習
プレーヤーはアイマスクを着けたまま、体育館の端から端へドリブルしたり、円陣を組んでパスの練習をしたりした。どちらもプレーヤー以外の児童が指示を出した。



③ 実際にゲームを行う。

アイマスクの有無や男女別で点数を変え、総当たり戦でゲームを行った。恐る恐るではあったが、チームメイトにしっかりと声かけをする姿が見られた。



- 講演会では、講師にブラインドサッカーを始めたきっかけや、競技を通じて得たものなど体験談を話していただき、障がい者と健常者が当たり前前に混ざり合い、お互いを尊重する社会について考える時間とした。
- 後日、アンケートを実施した。

6 主な成果

本校は、実際に東京オリンピックのサッカー競技を観戦し、その後に開催されたパラリンピックに関心をもっていた児童もいた。実際に講師と一緒にブラインドサッカーを体験し、講演を聞いた後、児童の意識は大きく変わった。学習後の感想の中で、講師に対する称賛の声とともに、「目が見えなくて怖かったが、仲間の声で少し安心できた」「的確に伝えることは難しいと感じた」「努力は必ず未来に生きてくるということがかっこよかった」「『見えなくても幸せ』でいられることがすごいと思った」という感想が述べられていた。

児童1人1人に、共生社会に対する理解の高まりを感じた。

7 実践において工夫した点(事業の特色)

鹿嶋市は、鹿島アントラーズのホームタウンであり、サッカーが好きで、積極的に取り組んでいる児童も多い。そのサッカーを「目が見えない」状態で実際に体験した後に、講師のお話を聞くことができた。

「目が見えない」＝「かわいそう」という視点ではなく、どのような言葉かけが実際に有効なのかということを経験は身をもって体験することができた。児童がこれからの共生社会について考えていく上でも非常に大きかった。

8 主な課題等

今年はオリンピックイヤーということもあり、児童の興味・関心は自然と高まった。今年だけで終わりにするのではなく、継続的な活動が必要であると考えます。

9 来年度以降の実施予定

今後も、総合的な学習の時間や道徳で、パラリンピックのことを取り上げていきたい。